

目次

●人間と文化（倫理学）	1
●人間と文化（疑似科学とのつき合い方）	2
●人間と文化（西洋哲学）	3
●人間と文化（東西科学文化交流史 I）	4
●人間と文化（日本の思想）	5
●人間と文化（比較思想史）	6
●人間と文化（生命倫理学の諸問題）	7
●人間と文化（政治哲学）	8

2010年度 前期	曜日・校時 水1 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566001001 授業科目/(英語名)	●人間と文化(倫理学) Humanity and Culture		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 429	
対象学生(クラス等)		科目分類 人文・社会科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 吉田 雅章 / / 環境科学部 4階 427室 / 819-2736 / 木曜日 15:00～16:30			
担当教員(オムニバス科目等)	吉田 雅章		
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>ねらい: 倫理学とはどういう学問であるかを理解し、倫理的思考を身につけ、人間や自己をめぐる問題の考察の力を養うことをねらいとする。</p> <p>授業方法(学習指導法): 講義形式であるが、毎時間学生からの質問をカードで聴取し、次回これに答えることによって、一層理解を深めるという方法を取る。</p> <p>到達目標: 取り上げられるテーマを理解することができ、自らもそうしたテーマについて思考を進め理解を深めることのできる基礎的能力を身につけ、人間や自己といった根本的・原理的な問題について考察することができる。</p>			
<p>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>概要: 倫理学は人間存在の学であるが、この講義では人間存在の意味を考えるために、まず人間存在を形成している習慣および習慣形成の根底に横たわる人柄の問題を取り上げて、その原理的な解明を行う。さらに、自己了解を形成する知と価値(自己論)をめぐる、ギリシア悲劇(ソポクレス『オイディプス王』)を検討することによってその意味を考察する。</p> <p>16回 考査</p> <p>第1回 オリエンテーション—倫理学とはどんな学問か、講義のねらい、内容の概要、講義の進め方など— 第2回 習慣の否定的評価と積極的评价 第3回 習慣の多様性 第4回 習慣と知識、習慣と意志 第5回 倫理学の誕生と人柄の意味 第6回 行為と人柄 第7回 「いのち」をめぐる二つの層 第8回 節度をめぐる人柄の4つの類型 第9回 自己知とは何か 第10回 良心 第11回 自己知と言葉 第12回 『オイディプス王』にみる自己知(1) 第13回 『オイディプス王』にみる自己知(2) 第14回 『オイディプス王』にみる自己知(3) 第15回 質疑応答</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	市販のテキストは使用しない。講義に際して配布する「講義概要」に基づいて講義を進めるが、第3のテーマである「自己論」については、教材としてソポクレス著/藤沢令夫訳『オイディプス』(岩波文庫)を用いるので、あらかじめ熟読しておく必要がある。		
成績評価の方法・基準等	考査(80)と報告書(20)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	講義に先立ち、講義概要を配布するので、講義に臨む準備として講義概要に十分目を通しておくこと。		

2010年度 前期	曜日・校時 水4	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566001002 授業科目/(英語名)	●人間と文化(疑似科学とのつき合い方) Humanity and Culture		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 201	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 安部 俊二 / abe-s@nagasaki-u.ac.jp / 教育学部本館6階617研究室 / 095 (819) 2309 / 水曜6講時			
担当教員(オムニバス科目等)	安部 俊二, 古谷 吉男, 上菌 恒太郎, 長島 雅裕, 武藤 浩二, 小西 祐馬		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 現代社会に蔓延する各種の疑似科学について学び、それらがなぜ疑似科学と呼ばれるのかを理解することによって、科学的なものの見方を獲得する。 さらに科学の「限界」を把握し、科学と価値の関係の理解を通じて、自律的に生きるための基礎力を養う。 授業方法(学習指導法): 黒板への番書やスライド、ビデオを用いた講義と、担当教員と受講生による討論を行う。 到達目標: 科学的なものの見方を獲得する。疑似科学かどうかを判断するための方策を考えることができるようになる。科学と価値の関係について考察できるようになる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 講義内容は多岐にわたるので、以下のように各教員がテーマに基づいて講義を行う。 第1回: 古谷吉男・上菌恒太郎「開講のあいさつ: 現代教育に欠けたもの」 第2回: 長島雅裕「血液型と性格」 第3回: 長島雅裕「超能力・UFOと宇宙人」 第4回: 武藤浩二「マイナスイオンと健康」 第5回: 武藤浩二「水からの伝言」 第6回: 武藤浩二「車・オーディオ・電磁波」 第7回: 長島雅裕「代替医療」 第8回: 全体討論会第1部: 第1~7回の講義について教員・学生で討論する。 第9回: 小西祐馬「社会調査のリテラシー: 統計データとの正しい接し方」 第10回: 小西祐馬「乳幼児の教育について: 早期教育の問題点」 第11回: 安部俊二「蔓延する学位商法(ディプロマ・ミル)」 第12回: 安部俊二「裁判と〈科学〉: 血液型とDNA鑑定」 第13回: 上菌恒太郎「〈科学的思考〉とはなにか」 第14回: 上菌恒太郎「〈自立〉し、〈考える〉人間になるために」 第15回: 全体討論会第2部: 第9~14回の講義について教員・学生で討論する。			
キーワード	科学、疑似科学、前科学、宗教の歴史、認識論、感性、法医学、大学偽装		
教科書・教材・参考書	教科書: 長崎大学教育学部「疑似科学とのつきあいかた」研究会編『疑似科学とのつきあいかた: 教師を目指す皆さんへ』 参考書: 大村政男『新訂 血液型と性格』(福村出版) 左巻健男『水は何にも知らないよ』(ディスカバートゥエンティワン) 安斉育郎『科学と非科学との間』(かもがわ出版) 伊勢田哲治『疑似科学と科学の哲学』(名古屋大学出版会) 池内了『疑似科学入門』(岩波新書) 木原善彦『UFOとポストモダン』(平凡社新書) 道田泰司・宮元博章・秋月りす『クリティカル進化論』(北大路書房) 菊池聡・谷口高士・宮元博章編『不思議現象 なぜ信じるのか』(北大路書房) 庄司和晃『科学的思考とは何か』『科学ばかり主義の克服: 未来の教育学のための人間研究』『人はなぜオカルトに魅かれるのか』(明治図書) 南郷継正『弁証法・認識論への道: 武道講義入門』(三一書房)		
成績評価の方法・基準等	講義テーマへの積極的な取り組みを重視する立場から課題レポート(5割)、討論を含む講義への貢献度および各教員が課した「レポート」の成績(5割)で総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 木2	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566001003 授業科目/(英語名)	●人間と文化(西洋哲学) Humanity and Culture		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 205	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 飯塚 知敬 / / 教育学部 610室 / 819-2313 / 木曜日、3校時			
担当教員(オムニバス科目等)	飯塚 知敬		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 西洋古代ギリシア、中世、近代・現代の哲学・倫理学の代表的な思想、あるいは歴史上の諸問題の考察を通して、西洋哲学・倫理学史、西洋文化理解への導入を目指す。 授業方法(学習指導法): 毎回、資料を配布し講義形式で進める。哲学・倫理学研究においては講義内容を自分で考え、まとめる作業が大切なので、講義が3回終了後、小テストを実施し、まとめのための時間を設ける。 到達目標: 西洋思想や歴史の大きな流れ、推移を理解し、自分の興味・関心に従って、視野を広げ理解を深めて行くための土台を形成する。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 第1回 ガイダンス 第2回 ソクラテスの思想 第3回 プラトンの思想 第4回 アリストテレスの思想 第5回 まとめ、小テスト(1) 第6回 ヘレニズムの思想 第7回 アウグスティヌスの思想とキリスト教 第8回 スコラ哲学について 第9回 まとめ、小テスト(2) 第10回 デカルトの思想と近代 第11回 ジョン・ロックとイギリス経験論 第12回 カントの思想 第13回 まとめ、小テスト(3) 第14回 現代の思想と問題 第15回 現代の思想と問題			
キーワード	西洋哲学・倫理学史、西洋思想と時代		
教科書・教材・参考書	毎回資料を配布する。教科書は使用しない。参考書等は講義の中で指示する。		
成績評価の方法・基準等	3回の小テストの合計点で評価する。		
受講要件(履修条件)	特になし。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	それぞれの思想について、要点を理解すること。思想と時代の大まかな流れを掴むこと。 思想と時代について、客観的な理解が得られるよう努めること。		
備考(準備学習等)	特になし。		

2010年度 後期	曜日・校時 火2 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566001004 授業科目/(英語名)	●人間と文化(東西科学文化交流史Ⅰ) Humanity and Culture		
対象年次 1年,2年,3年,4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 102	
対象学生(クラス等) 全学年	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 姫野 順一 / himeno@nagasaki-u.ac.jp / 環420 / 819-2722 / 金 15:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	姫野 順一, 勝俣 隆, 中西 弘樹, 吉田 雅章, 戸田 清, 菅原 潤, 正本 忍, 松田 雅子, 柴多 一雄, 嶋津 拓, 池田 幸恵, 葉柳 和則, 深見 聡		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: この講義は第一に東洋と西洋における科学と文化の「知的交流の歴史」(Cross Intellectual History)を理解することをねらっています。第二にこの講義を通じて科学と文化の知的交流の歴史を理解することで、長崎の文化的な創造力や異文化交流における態度・倫理の形成をねらっています。第三に選択テーマによる最終レポートを課すことで自主性と思考力、判断力と表現力を身につけることをねらっています。 授業方法(学習指導法): オムニバス方式を採用し、さまざまな領域の研究者による異なった視点からの授業を実施します。 到達目標: 本講義はグローバル化時代における「科学の移転」と「多様な文化の交流」の意義を理解し、これを表現できる能力の養成を最終目標にしています。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 第1回 10/5 第1回 Face to West and Face to East 姫野順一(環境科学部 教授) 第2回 10/12 第2回 南蛮・紅毛と長崎 姫野順一(同) 第3回 10/19 第3回 西洋科学の伝来 戸田 清(同) 第4回 10/26 第4回 辞書の伝播 池田幸恵(同 准教授) 第5回 11/2 第5回 舞台芸術の翻訳可能性と不可能性 葉柳和則(同教授) 第6回 11/9 第6回 オランダにおける日本語教育の歴史と現状 ～なぜオランダ人は日本語を学んできたのか～ 嶋津 拓(留学センター 教授) 第7回 11/16 第7回 教養主義と修養主義の相剋—西洋文芸の日本的受容のあり方について— 菅原 潤(環境科学部教授) 第8回 11/30 第8回 近世における情報の伝達 柴多一雄(経済学部 教授) 第9回 12/7 第9回 日仏交流史:今と昔 正本 忍(環境科学部准教授) 第10回 12/14 第10回 西洋文学は日本の古典文学に影響を与えたか 勝俣 隆(教育学部 教授) 第11回 12/21 第11回 辞書の伝播 松田雅子(環境科学部 准教授) 第12回 1/11 第12回 長崎への蘭学留学と幕末雄藩の活躍 深見聡(同 准教授) 第13回 1/18 第13回 本草学から自然科学へ 中西弘樹(教育学部 教授) 第14回 1/25 第14回 アルファベットの誕生と書物の成立 吉田雅章(環境科学部 教授) 第15回 2/1 第15回 長崎の東西文化交流を振り返る 姫野順一(同)			
キーワード	東西交流、科学文化、日中蘭交渉史、言語・辞書		
教科書・教材・参考書	テキストや教材は講師から適宜提供されまた指示されます。		
成績評価の方法・基準等	毎回授業で出される小レポートの集計で評価されます。		
受講要件(履修条件)	特になし		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	他の歴史科目(科学史・日本史・西洋史・東洋史など)との関連で長崎の歴史をオランダやポルトガル、中国や東南アジアとの「科学と文化の知的交流史」を理解させる。 長崎で観光客に長崎の知的交流の歴史を語る能力をめざす。		
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 火4	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566001005 授業科目/(英語名)	●人間と文化(日本の思想) Humanity and Culture		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 321	
対象学生(クラス等)		科目分類 人文・社会科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 佐久間 正 / sakuma@nagasaki-u.ac.jp / 819-2731 / 授業終了後～17時			
担当教員(オムニバス科目等)	佐久間 正		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 日本思想史学に関する基礎的知識を獲得する。 授業方法(学習指導法): 配布のプリント資料に基づき講義を行う。 到達目標: 日本思想史学に関する基礎的知識を獲得し、日本の思想について簡単な説明ができるようにする。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 下記のスケジュールに沿って講義を進める。 第16回 2/8: 定期試験 第1回 10/5: はじめに 第2回 10/12: 「日本思想史」の考え方(1) 第3回 10/19: 「日本思想史」の考え方(2) 第4回 10/26: 古代の思想(1) 第5回 11/2: 古代の思想(2) 第6回 11/9: 中世の思想(1) 第7回 11/16: 中世の思想(2) 第8回 11/30: 中世の思想(3) 第9回 12/7: 近世の思想(1) 第10回 12/14: 近世の思想(2) 第11回 12/21: 近世の思想(3) 第12回 1/11: 近世の思想(4) 第13回 1/18: 近代の思想(1) 第14回 1/25: 近代の思想(2) 第15回 2/1: おわりに			
キーワード	日本、思想史、外来、土着、日本化		
教科書・教材・参考書	教科書は特に用いない。 参考書 加藤周一『日本文学史序説』(上、下、1999、ちくま文庫)、『日本思想史概説』(ミネルヴァ書房)。その他適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等	期末試験(80%)。授業への貢献度(20%)。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 金1	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566001006 授業科目/(英語名)	●人間と文化(比較思想史) Humanity and Culture		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 201	
対象学生(クラス等)		科目分類 人文・社会科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 菅原 潤 / suga@nagasaki-u.ac.jp / / 819-2730 / 火曜日 ; 14 : 30 ~ 16 : 00			
担当教員(オムニバス科目等)	菅原 潤		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 西洋の哲学史を基礎として日本の思想および、現代では欠かすことの出来ないフェミニズムについて考察する。 授業方法(学習指導法): 講義形式 到達目標: 21世紀における哲学の役割を説明できること。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 第1回 10/1 インTRODクシヨン 第2回 10/8 古代哲学 第3回 10/15 中世哲学 第4回 10/22 近世哲学 第5回 10/29 カント 第6回 11/5 ドイツ観念論 第7回 11/12 ニーチェ 第8回 11/26 解釈学 第9回 12/3 現象学 第10回 12/10 科学哲学 第11回 12/17 功利主義 第12回 12/24 政治哲学 第13回 1/7 日本哲学 第14回 1/21 フェミニズム 第15回 1/28 戦後思想			
キーワード	西洋、日本、フェミニズム		
教科書・教材・参考書	菅原潤他編『21世紀の哲学』(昭和堂、近刊)		
成績評価の方法・基準等	レポートによる評価(100%)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 金3	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566001007 授業科目/(英語名)	●人間と文化(生命倫理学の諸問題) Humanity and Culture		
対象年次 1年,2年,3年,4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 430	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 新名 隆志 / wa_lion@yahoo.co.jp / 非常勤講師控室 / / 講義の行なわれる日(後期の毎週金曜日)4時限目終了後、非常勤講師室にて			
担当教員(オムニバス科目等)	新名 隆志		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい:生命倫理学の基本的な知識を学ぶとともに、具体的な議論の検討をしていく中でできるだけ視野を広げ、倫理的な思考法を少しでも身につけてほしい。自らの頭で考え、一から問い直し主張を構築すること、また他人の主張を冷静に吟味し、議論を積み重ねて行くこと、このような学問の基礎的なあり方を学んでほしい。 授業方法(学習指導法):講義による授業を基本とする。ビデオ鑑賞もとり入れる。学生の意見や質問を聞き、それに答えるという時間でもできるだけつくり、学生との双方向的な関係をつくりたい。 到達目標:・生命倫理的な社会問題の基本的な論点を理解する。 ・常識や自分の感覚をいったん疑い、広い視野で自由に思考できるようになる。 ・講師や他の学生との対話・議論を通して、論理的な批判力と主張を構築する力を身につける。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 生命倫理学、特に人の死に関わる諸問題をテーマとして取り上げる。具体的には脳死・臓器移植、安楽死・尊厳死といったテーマを扱う予定である。医療技術・科学技術の進展により、現代人は人間生命のあり方に深く介入できるようになった。これは一方で利益を生む側面がありながら、一方で我々の基本的な生命観や人生観に大きな影響を与える。人間生命に対して事実上できることをどこまで社会的に認めるか、ここには大きな意見の対立があり、それは基本的な生命観や思想の対立・ずれに由来することがしばしばである。本講義では上述のような具体的諸問題についての議論を検討しながら、人間生命について基本的な考え方の次元から再考し、こうした諸問題についての社会的合意形成とルール作りの道筋を学生と共に模索していきたい。 2月4日 第16回 定期試験 第1回 10月1日 第1回 講義のガイダンス・イントロダクション テーマの紹介 履修上の注意 成績評価の説明など 第2回 10月8日 第2回 脳死・臓器移植(1) 具体的諸問題の概説 脳死の定義 第3回 10月15日 第3回 脳死・臓器移植(2) 脳死判定基準、臓器移植法の問題点 第4回 10月22日 第4回 脳死・臓器移植(3) 脳死は人の死か 第5回 10月29日 第5回 脳死・臓器移植(4) 脳死は人の死か 第6回 11月5日 第6回 脳死・臓器移植(5) 臓器移植法の諸問題 第7回 11月12日 第7回 脳死・臓器移植(6) 臓器移植法の諸問題 第8回 11月26日 第8回 脳死・臓器移植(7) 臓器提供制度の再検討 まとめ 第9回 12月3日 第9回 安楽死・尊厳死(1) 基本知識の説明 第10回 12月10日 第10回 安楽死・尊厳死(2) 安楽死・尊厳死の実態を知る 第11回 12月17日 第11回 安楽死・尊厳死(3) 代表的な積極的安楽死反対論の検討 第12回 12月24日 第12回 安楽死・尊厳死(4) 死の自己決定権の問題点 第13回 1月7日 第13回 安楽死・尊厳死(5) 死の自己決定権の問題点 幸福な死 第14回 1月21日 第14回 安楽死・尊厳死(6) 終末期患者の心理的問題 緩和ケアとの関連 第15回 1月28日 第15回 まとめ・補足・定期試験についての説明			
キーワード			
教科書・教材・参考書	参考書:『よく生き、よく死ぬ、ための生命倫理学』、篠原駿一郎・石橋孝明編、ナカニシヤ出版 その他、授業で適宜紹介する		
成績評価の方法・基準等	出席点あるいは簡単なレポート(30%)と学期末の定期試験(70%)により評価する予定。 状況により変更がありうるが、評価方法については必ず授業中に説明する。		
受講要件(履修条件)	携帯電話の使用、私語など、他の学生や講師にとって授業妨害になる行為をしないこと。 自らの思考力や議論力を高めるため、活気ある授業を楽しむため、また、大きな誤解をしたまま試験に臨まないためにも、できるだけ積極的に質問や発言を行うことが望ましい。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 金4	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566001008 授業科目/(英語名)	●人間と文化(政治哲学) Humanity and Culture		
対象年次 1年,2年,3年,4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 430	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 新名 隆志 / wa_lion@yahoo.co.jp / 非常勤講師控室 / / 講義の行なわれる日(後期の毎週金曜日) 4時限目終了後、非常勤講師室にて			
担当教員(オムニバス科目等)	新名 隆志		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい:政治哲学の主要な問いとテーマを理解すること。近現代の国家論や政治思想が、どれだけ我々の生の基本的価値や規範に関わっているかを実感すること。理論への関心を高め、自ら思考する力を養うこと。 授業方法(学習指導法):講義による授業を基本とする。学生の意見や質問を聞き、それに答えるという時間もできるだけつくり、学生との双方向的な関係をつくりたい。 到達目標:・近代政治哲学の基本的な論点を理解する。 ・常識や自分の感覚をいったん疑い、広い視野で自由に思考できるようになる。			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 近現代政治哲学をテーマとする。前半は国家の本質やその権力の正統性という問題を中心に論じる。近代国家観の思想的礎を築いたと考えられる社会契約論を中心に扱い、各思想家の国家論や政治思想の要点と意義をできるだけわかりやすくまとめ、それらを対照しながら概説する。後半は、特に自由、福祉、平等といった政治哲学の主要概念について、功利主義以降の現代の諸思想を対比しながら、それらの意義と問題点について考察を深める。全体を通して、我々が日常で漠然と理解したつもりになっている政治的な諸概念がどのような思想の深みの中で生まれたのか、そして現代の我々の生にどのような影響を与え、どのような具体的問題と関連しているのかを、あらためて整理し明晰化したい。また、そのことが、現代や未来の社会にふさわしい新しい規範の創造に見通しを与えてくれることを期待したい。 2月4日 第16回 定期試験 第1回 10月1日 第1回 講義のガイダンス・イントロダクション テーマの紹介 履修上の注意 成績評価の説明など 第2回 10月8日 第2回 国家(1) 国家の定義 国家の基本的価値としての正義 第3回 10月15日 第3回 国家(2) 国家死滅論 第4回 10月22日 第4回 国家(3) 契約論的国家観の背景:自然法 第5回 10月29日 第5回 国家(4) ホッブズ、ロック、ルソーの国家論の概説 第6回 11月5日 第6回 国家(5) ホッブズ、ロック、ルソーの国家論、それぞれの特徴と差異 第7回 11月12日 第7回 国家(6) ゲーム理論による契約論的正当化の捉え返し 第8回 11月26日 第8回 自由(1) 近代的自由の思想的源流 自由は第一の価値か 第9回 12月3日 第9回 自由(2) 自由尊重主義の検討 第10回 12月10日 第10回 自由(3) 功利主義における自由の検討 第11回 12月17日 第11回 福祉(1) 現代リベラリズムの思想的源流—ロールズ正義論 第12回 12月24日 第12回 福祉(2) 福祉という問題に対するロールズ思想の意義 第13回 1月7日 第13回 平等(1) 平等という視点からのロールズ批判 ドゥウオーキンの平等 第14回 1月21日 第14回 平等(2) 平等という視点からのロールズ批判 センの平等 第15回 1月28日 第15回 まとめと補足 現代における正義の具体的諸問題			
キーワード			
教科書・教材・参考書	授業中に参考書を適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等	出席点あるいは簡単なレポート(30%)と学期末の定期試験(70%)により評価する予定。状況により変更がありうるが、評価方法については必ず授業中に説明する。		
受講要件(履修条件)	携帯電話の使用、私語など、他の学生や講師にとって授業妨害になる行為をしないこと。 自らの思考力や議論力を高めるため、活気ある授業を楽しむため、また、大きな誤解をしたまま試験に臨まないためにも、できるだけ積極的に質問や発言を行うことが望ましい。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			